

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	11	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名： 公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 施設名： 兵庫県立尼崎青少年創造劇場
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>兵庫県が策定した「兵庫県芸術文化振興ビジョン」を踏まえ、「地域が芸術文化でつながり、誰もが生きやすい社会」をつくることを目指した当該劇場のミッションと、《劇場・劇団・学校》という3つの強みを生かしたビジョンは明確である。また、事業計画は、その他の構成要素も含め有機的に連関しており、これらの達成に向けて事業が適切に推進されていると認められる。</p> <p>劇場のみならず、演劇学校、舞台技術学校、ピッコロ劇団の運営実績を生かした当該劇場は、開館から40年余の歴史を有し、強固な地域ネットワークを築き上げた。また、若者達の成果発表と交流の場であるピッコロフェスティバルの開催は、演劇文化の普及に努め、地域の文化振興に貢献した。加えて、障害者の鑑賞体験機会の拡大や経済支援が必要な家庭への招待など、あらゆる人々が文化芸術を享受できる機会を提供しており、助成に値する文化的、社会的意義が継続的に認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>当該劇場が設定した平成30年度要望書に記載の10のアウトカムのうち、3つについては、専属劇団の強みを生かした上質な創作上演、地域への演劇鑑賞機会の提供、鑑賞サポートの実施、バリアフリー研修の開催などにより、目標を達成した。アウトカムの発現が認められた。</p> <p>また、7つのアウトカムについては、コロナ禍の影響を受け、実施期間を短縮し、参加側、鑑賞側とも人数を抑制せざるを得なかったため、目標を下回った。</p> <p>以上のことから目標の一部を達成し、一定程度のアウトカムの発現が認められる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、おおむね適切であったと認められるものの、一部の事業において、要望時の予算額と報告時の実績額との間でかい離があった。実効性のある予算積算と適切な予算管理に努めてほしい。</p> <p>（創造性）</p> <p>当該劇場は、演劇専門劇場、プロの専属劇団、演劇学校及び舞台技術学校を有する強みを生かし、質の高い公演事業や舞台芸術の専門人材育成事業、音声ガイドや字幕作成などの鑑賞サポート事業を実施し積極的に取り組んだ。</p> <p>土田英生作・演出によるピッコロ劇団第71回公演『いらないものだけ手に入る』は、恋愛の行方を通して、戦争やコロナ禍における言論の分断状況を描いた。極限状況における社会を批評した脚本は優れており、企画コンセプトは秀逸であった。本公演は、令和3年</p>		

度（第76回）文化庁芸術祭賞大賞（関西参加公演の部）を受賞し、専属劇団による質の高い舞台成果が認められた。

「中学生のための演劇鑑賞体験事業ピッコロわくわくステージ グリム兄弟！～みんなのメルヘン きかせてダンケ～」では、舞台の内側を飛び出す絵本のように際立たせた舞台美術や緻密にデザインされた衣裳、舞台を楽しみながら考え方、生き方、価値観を問う作品づくりにより、スタッフ、キャストの高度な専門性が認められた。

約半年間で初心者基礎訓練から台本制作を経て演劇作品として仕上げた「ピッコロ演劇学校」の成果発表会では、劇団員による指導が優れていた。

鑑賞サポート事業は、劇団員自らが音声ガイドの作成、字幕の作成に携わり、現場におけるライブでのナレーションや字幕操作も担当しており、これらの取組は新聞や学会誌にも取り上げられ、誰もが生きやすい社会をつくる取組の一助であると認められた。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性に優れており、事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

当該劇場は、劇場運営委員会など多様な専門家で構成される外部機関の意見や助言を得つつ、自治体及び地域と連携しながら事業を運営しており、地域との密接な関係が認められる。

人事面では、正規職員の維持、定年退職者の再雇用、他施設との人事交流等により専門能力の高い職員の確保に努めている。

財務状況は、指定管理料、民間助成の活用、民間や後援会による支援により、安定的な財源が確保され、経営の安定化に努めていることが認められる。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総 評）

全国初の公立劇団として誕生したピッコロ劇団は、着実に実績を積み上げ、当該劇場の事業計画「“観る”“知る”“学ぶ”そして“繋がる”50年へ”行動計画」に掲げたミッションを明確に具現化しつつある。以上のことから、当該劇場は計画的な事業展開を実行していると認められる。

関西圏に立地する特徴を生かし、劇団の創造的活動がより一層成長することに期待したい。また、阪神淡路大震災を経験した劇場として、地域への社会貢献はもとより、あらゆる人々の社会参加を促す社会的包摂活動の推進を望みたい。